

# 大学の世界展開力強化事業(2021年度選定) 東京藝術大学 取組概要

## 【事業の名称】(選定年度2021年度・(タイプA①))

日中韓+ASEANの文化・経済圏発展に向けた、アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築

## 【交流推進事業の概要】



### AAENカリキュラムの開発

●単位または履修証明を伴うプログラム

#### 【大学院向けカリキュラム】

アニメーション国際共同制作プログラム「Co-work」(年1回)  
日中韓他の学生からなる混成チームで、3か月に渡り企画から  
動画コンテ制作、作画、着色、音声作業まで行い  
短編アニメーションを完成させ、成果発表会を行う

#### 【学部向けカリキュラム】

オンラインレクチャー(90分×15回)、単発レクチャー等  
例)日中韓アニメーション史、アニメーション表現と作画等

●様々なワークショップ

アニメーション分野だけではなく、ゲーム分野やICT分野への  
拡張も見据えた多様なテーマのワークショップを随時開催  
例)XE(拡張現実ワークショップ、人間とコンピューターの共存)

#### 知見の共有としてのシンポジウム

Co-workの成果発表やワークショップの報告を兼ねた  
オンラインシンポジウムや学会を年一回開催し、  
参加校全体の啓蒙と教育のレベルアップを促進

#### 様々な交流プログラム

参加校間で短期・中期の交流研修プログラムを開催し、  
教員学生間の交流を促進

## 【交流プログラムの概要】

大学院向けプログラムとして、アニメーション国際共同制作プログラム「Co-work」(年1回)を、日中韓他の学生からなる混成チームにより実施、短編アニメーション制作を行い、学部生向けプログラムとして、単位を伴うオンラインレクチャーを実施する。また多様なワークショップも実施し、交換留学等の様々な交流プログラム、知見の共有としてシンポジウムを行う。アジアアニメーション教育ネットワーク(AAEN)の構築を目指す。

## 【本事業で養成する人材像】

- ・国際的な視野を持ち、深い知識と高い技術を、世界の課題解決のための国際協働の場で活かせる人材
- ・映像分野におけるグローバル化を先導する人材
- ・アニメーション分野において国際共同制作や共同研究を牽引する人材

## 【本事業の特徴】

交流プログラムの実施、知見の共有などを通して、アニメーション教育・研究の共同プラットフォームを構築していくことを目指す。それにより、将来のアジアのアニメーション文化・産業を担う人材を育成し、新たな表現や技術を開発し、アニメーションを中心としたアジア文化・経済圏の更なる発展に貢献する。

## 【交流予定人数】

		2021	2022	2023	2024	2025
派遣	実際に渡航する学生	0	2	3	3	3
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	1	1	2	2	2
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	5	5	5	5
受入	実際に渡航する学生	0	2	3	3	3
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	2	3	6	6	6
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	10	10	10	10

# 1. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【東京藝術大学】

【事業の名称】(採択年度 令和3年度)

日中韓+ASEANの文化・経済圏発展に向けた、アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築

## ■ 交流プログラムの実施状況

連携校をはじめとする参加予定校と、アジアアニメーション教育ネットワーク(AAEN)の構築を目的とした情報共有を行い、今後の活動に向けて発展的な議論を行った。また、AAENカリキュラムの開発に向け、ASEAN諸国の学部生を対象としたオンラインレクチャーのパイロット版制作を連携校の中国伝媒大学、韓国芸術総合学校と開始した。

1月:

- 連携校の中国伝媒大学、韓国芸術総合学校、タイ・シラパコーン大学、および、ラオス国立美術学校をはじめとする協力校とキックオフシンポジウム「Stepping Forward ~アジアアニメーション教育ネットワーク発足に向けて~」を開催し、既存教育カリキュラム「アニメーション国際共同制作演習(Co-work)」から得た知見を共有すると共に、ASEAN各国のアニメーション教育事情と求められるカリキュラムについて議論した。
- 日本でアニメーションを学ぶ留学生を中心としたアニメーション専攻の学生と、アジア地域研究のコメンテーターによる、作品上映および感想、議論を交わすイベント「留学生の心象風景-アニメーション作品上映&トーク」を開催し、イベントの様子を東京藝大デジタルツイン展示会場「デジタル陳列館」にてアーカイブ展示した。

3月:

- 連携校の中国伝媒大学、韓国芸術総合学校とAAENのキックオフイベントをメタバース上で開催し、日本・韓国・中国・タイ・ラオス・ドイツ等からゲストが集まった。バーチャル会場を設け、関係者によるリアルタイムでの挨拶と、Co-work12年分の全作品の視聴を可能とした。



〈アジアアニメーション教育ネットワーク  
キックオフシンポジウム 2022年1月開催〉



〈留学生の心象風景-アニメーション作品上映  
&トーク〉 2022年1月開催〉

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

アニメーション専攻の大学院生延べ15名が、オンラインイベント(上記「Stepping Forward」、「留学生の心象風景」、ならびに中国伝媒大学主催の「China-Japan-Korea Animation and Digital Arts International Forum」)に登壇した。

### ○ 外国人留学生の受入

中国伝媒大学、韓国芸術総合学校の大学院生12名が上記オンラインイベント「Stepping Forward」に登壇した。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	1	15
学生の受入	2	12

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 令和3年9月にダブルディグリー協定を締結した韓国芸術総合学校と、令和4年度からのプログラム施行に向け、二校間の会議を行った。
- 「日中韓の質の保証を伴った大学間交流に関するガイドライン」に基づき、日中韓を中心とした連携大学の合同会議連携校教員による「AAENカリキュラムディベロップメント会議」を実施した。
- 本学の「グローバル戦略推進委員会」による自己評価、「グローバル戦略評価・検証委員会」による外部評価により、事業の内容および質を検証した。

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- サポート体制整備のため、専任教員1名・サポート教員1名を新たに配置した。
- 参加校の教員が綿密な協議を行い、講義等のテーマ、教育プログラムの内容、参加学生の水準、到達目標、成績評価方法、学習成果や単位の取り扱い等について共同で計画し、質の向上及び運用の安定化を図っている。

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- Co-workおよびAAENの啓蒙と発信を目的とするウェブサイト「Tokyo Geidai Campus Asia Plus(仮称)」を立ち上げるための準備を開始した。
- 「Campus Asia Plus」の前身となる「Campus Asia」開始当初から東京藝術大学・中国伝媒大学・韓国芸術総合学校の三校で継続して運営しているサイト(caica.online)を更新した。

## ■ グッドプラクティス等

- 令和4年度より開始するプログラムの受講やオンライン共同制作に適応しつつ、各国の事情にも対応した通信環境の整備を行った。